この映画は私全部が見た映画の中に一番悲しいのと思う。悲しい映画が嫌いだから、見た事の前に、私はあまり見たくないですが、映画の始まりからもう好きになりました。この映画は確かに悲しすぎるだけど、意味が厚いと思います。ストーリは男の一人とアルツハイマー病の戦争だけじゃない、も家族の複雑な関係と愛のストーリです。

主人公の渡辺謙さんは「佐伯雅行」に出演するとは本当に似合いと思います。佐伯さんの辛いな気持ちはちゃんと感じました。でも佐伯さんの苦心だけじゃない、奥さんの枝实子さんも自分のご主人にその力無げになるに苦しむ。二人の欲求不满とか、愛とか、涙とか、は観てての私に胸がぎゅっとなる。その愛は本当にすごいと思う。やっぱり、夫婦の愛はその難病より悲しいかも知れない。最後のシーンは一番悲しいとおもう。でもやっぱりこの映画のためにすごく泣いた。